

【新体操女子審判員報告】

【審判長 栗原 悠】

1、採点上打ち合わせた事項

① 全国講習会パワーポイントを事前配布

女子新体操では大幅なルール改正が行われ、当日の研修時間内にすべての内容を確認するのが難しいため、全国講習会で使用したパワーポイント資料を事前に送付し、審判員が自己研鑽できるようにした。

② 映像研修

新ルールの下で初めての全国大会であったため、映像研修を多く行うことを心掛けた。事前に映像を送り、当日にその見解を確認する方法をとった。

③ ルール変更に伴うクリアランスゾーン確認

今大会ではフロアマットの下に赤いカーペットを敷き、フロアマットのピンク部分と赤いカーペットを合わせた長さがちょうどクリアランスゾーン規定の2m50cmとなった。そのため、赤いカーペット内をクリアランスゾーンとして定めた。今後はラインテープを貼るなどの対応が必要になる。

2、採点上おこった事項とその処理

・芸術の評価

芸術においてはそれぞれの作品ごとに評価されるべきだが、どうしても選手の評価になってしまう点や、作品が良い場合のE減点による影響と、ミスがなくてもキャラクターや身体の動き・つながぎ等に問題があると判断した場合、アイデアのガイド・身体の動き・つながぎ・リズム減点の統一を図った。

・演技終了時の減点

減点している審判とそうでない審判がいたため、確認を行った。

・落下などのE減点

複雑なミスが起きた時に審判間の点数が離れていた場合、落下の減点を確認した。

3、その他 特記事項・意見・感想等

1月末の全国ルール講習会を経て迎えた初めての全国大会であったため、選手、監督、運営、審判員など、さまざまな立場で大変緊張感のある大会となりました。2025年高体連適用規則はFIG採点規則集をそのまま採用していますが、FIG大会もまだ開始されていない状態での試合だったため、大陸間講習会の映像研修を活用し、国際的な評価の方向性に合わせるよう心掛けました。

試合を通して感じたことは、新ルールの求める【個性のある構成】にまだ不足を感じました。国際の審判研修では、“D要素を入れるように、演技の中に芸術を入れなければいけない”とお話がありました。その点ではルール改正後、試合までの期間も短かったことも影響してまだD重視の従来と変わらない実施が多かったように感じます。選手が一番輝くことのできる音楽に出会い、オリジナリティある演技を通して見ている人に感情・感動を伝えるのが新体操の一番の魅力で、今回のルールの改正の大きな柱となっていると思います。不足に繋がる大きな課題は、頭・胸・腰の部位が動いていない選手が多いこと、また、音楽と合わせた身体の動きが不足していることだと感じました。また、DAやDBの難しい技への挑戦が少なかったことです。海外の選手は、何年も何年もその技を続けています。今できないから諦めるのではなく、先を見据えて継続して取り組んでいってほしいと思いました。最後になりましたが、新ルールの採点に不安を感じつつも、採点に集中でき、選手たちが安心してフロアに立つことができたのは、香川県実行委員会、高体連体操専門部、そしてすべての関係者の皆様のご尽力のおかげです。今大会に審判長として携わることができたことに心から感謝申し上げます。

1、採点上打ち合わせた事項

事前に全国講習の資料、採点練習用の映像を配信し、各自でルールの確認、自身のパートの採点練習を終えた状態で集合。当日は、各パートの採点時のポイントを確認した後、事前に配信した映像の中から抜粋し、得点出し、各パートでのディスカッション、解説を実施し、見解の統一を図った。

2、採点上起こった事項とその処理

【個人 DB】

- ・フェッテピボットについて、動脚の誤差によりノーカウントとなるケースがあった。開始時から 20 度以上の誤差を伴っていたのか、何回転目から動脚が下がったのか、差異があった際に審判間で確認を行った。
- ・フェッテピボットについて、カウントできるフォームで実施していても、最終回転が回転不足となり、実施した回転数より少ないカウントとなる選手が多く見られた。
- ・バランスの静止が短い選手が度々いた。ノーカウントになるのか、減点を伴いカウントできるレベルなのか、悩んだ際には DB のフォーム、手具操作との関わりに注視して判断した。
- ・R について、受けながらの最終回転が無効となってしまうケースが多く見られた。回転動作に入っているものはカウント、受けてから回転しているものはノーカウントとし、全選手同じ目線で判断することを心掛けた。
- ・リボンについて、ルール変更に伴い螺旋、蛇形の数最低 4 つとなったことで、図形の数の不足によりノーカウントとなる DB は減った印象を受けた。
- ・後屈を伴うジャンプについて、後屈の誤差によりダウングレードを行ってカウントするケースがあった。シリーズで実施した際や、R での実施の場合など、カウント方法に注意し、審判間で確認した。

【個人 E】

- ・開脚度、後屈、上体の位置の誤差について、誤差の減点を瞬時に見極めることに難しさを感じた。0.3 の誤差を伴って DB が有効なレベルなのか、それとも DB が無効となる 20 度以上の誤差なのか、悩んでしまった際に審判間に差異が出たように感じた。
- ・バランス DB の止まりの甘さが目立った。DA のために演技構成に組み込んでいるバランス DB においても、明確な止まりを見せることを選手自身が意識する必要があると感じた。

【団体 DB】

- ・ジャンプ DB について、後屈の誤差によるダウングレードを行ってカウントするケースが数件あった。5 人全員の身体レベルが高いチームは DB のフォームも明確であり、カウント・ノーカウントに迷う場面が少なかった。
- ・フェッテターンのカウントについて、審判間で差異が生じる場面が数回あった。5 名全員の誤差、回転不足、手具操作との関わり等を瞬時に見極めることに集中した。
- ・実施度により、距離・高さの両方が不明確になり、無効となる交換があった。高さの出しづらい実施方法での交換においては、明確に 8m の距離をとって練習に励む必要性を感じた。

【団体 E】

- ・何かをきっかけに演技の流れが崩れてしまい、わずか数秒の間に複数の落下ミスが起きてしまうチームがあった。落下の回数、それぞれの歩数は審判席の角度によっては見づらいこともあり、審判間の減点に差異があり、確認を行った。
- ・ボール・フープは転がってしまう手具であるため、両手受け、抱え受けが目立った。練習時から、手具を遠くで扱う意識を持って取り組んでいるかどうかで、評価が大きく変わることを感じた。

3、その他特記事項・意見・感想等

この度は、全国高校選抜大会において、審判業務の機会を頂き、心より感謝申し上げます。ルール変更後初めての全国大会ということで、大変緊張感がありましたが、栗原審判長が事前に沢山の貴重な研修映像を共有してくださり、採点練習を進めていく中で徐々に自身の抱く不安や不明点が解消され、安心して試合を迎えることができました。

今大会での出来を含めた実施度の評価は勿論ですが、選手達が時間をかけて養ってきた技術や美しさ、ルールに則って磨いてきた芸術性なども評価したいと信念を持って採点を行いました。D要素の数が減った影響により、1つ1つの要素を丁寧に行っている印象を受けましたが、シーズン序盤ということもあり個性の光る演技はまだ少なく感じました。伸び盛りである高校生の時期に、様々な技に挑戦し、様々な分野の音楽にチャレンジし、技術と同時に個性を磨き、各選手、チームの新体操の幅が今後さらに広がることを期待しております。

大会全体を通して、選手達から沢山のエネルギーを受け、今後の可能性を感じました。新ルールを模索しながら迎えた今大会での反省を踏まえて、本格的な夏のシーズンに向けて実施力を磨き、より完成度の上がった演技を楽しみにしております。選手と同様に私自身も審判員として日々研鑽を積み、1演技1演技と向き合い、今後も審判経験を積んでまいります。

最後になりましたが、開催権である香川県の役員の皆様、高体連体操専門部の皆様、全ての関係者の皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

【個人 フープ・クラブ DB、団体 DA 菅 真彩】

1、採点上打ち合わせた事項

【個人 DB フープ・クラブ】

- ・本サイクルより combine 難度は削除になったため、実施していた場合は、2DB になるということ。
- ・各身体難度において、身体難度表の同じ BOX は同じ DB になるため注意が必要。
- ・フェットバランス、フェットローテーションの価値点や、ノーカウントとなる定義についての確認。
- ・身体難度中のリピートになる手具操作の解釈について
- ・Rにおける垂直軸回転のグループ1の回転はルールブックに則り2回使用できることなど。
- ・映像研修において、手具操作のタイミングの見極めや、実施減点-0.5の誤差と0-.3の誤差の見極めの大切さを学んだ。
- ・Rについては、加点基準が変更になっているため、細心の注意を払いながら採点業務にあたった。

【団体 DA】

- ・CCやCRの受けの加点要素の見極めについては慎重に確認をした。視野外の定義についてはルールブックに則っているのか、見極めながら採点に臨んだ。映像研修の動画は、旧ルールだったため、連系の定義が満たされているのか、など根本的に異なる点が多かったため、研修時はそのような場面で迷いはあったが、一つ一つの価値や個数など丁寧に確認をすることが出来た。
- ・通過の加点要素の見極め、定義の変更の確認。

研修動画については、事前に審判長より、採点用動画を送付いただいたため、事前に自身で研鑽を積むことが出来ました。様々な動画を送付いただいたため、事前に採点を行い、改めて審判研修の際に実際に採点をしたため、自身が気を付けなければならない点、また事前に採点をした中で迷いがあった点などを冷静にそして落ち着いて確認することが出来た。

2、採点上起こった事項とその処理

【個人 DB フープ・クラブ】

(フープ)

- ・パンシェローテーションにおいて、脚の下で持ち替えの操作を試みようとした選手が、両手でフープを保持したまま終了していた場合ノーカウントとした。実施する選手も、採点する審判も改め注意が必要である。

(クラブ)

- ・複数投げについては、二本が空中にない場合、加点はなしとした。
前方回転や側方回転などをしながら投げる R を実施する際は、映像研修にもあったように、「回転後に投げを実施していないか」を見極めることにも注力した。

(共通)

- ・R の受けの時の回転の見極めが難しい場面があった。
- ・ジャンプリープを R のシリーズにて実施しているが、投げが乱れたことによって、実施減点 0.5 の誤差のため、ノーカウントとした。
- ・フェットローテーションの回転不足・実施減点 0.5 の誤差のため、ノーカウントとした。

【団体 DA】

- ・複数投げの定義において、主要動作の選手の投げ～その手具をパートナーがキャッチするまでに 5 名全員が関わっているか、見極めが重要であった。また、8 m の距離にて複数投げを実施する際は、パートナーへ手具が到達するまでにスピードが速いため注意が必要である。
- ・複数受けについては、1 秒以内ではない場合、ノーカウントとした。
- ・CC を実施する際に、わずかにでもタイミングをずらして実施していた場合は、カウントしたが、明らかに二番目、三番目が同時に実施された場合はノーカウントとした。
- ・くぐりぬけの加点の定義が今サイクルから大きく変更になったため、様々な工夫がされている中で、閉じられているのかと言う点において注意を払いながら採点業務にあたった。
- ・combine 連係が今サイクルからなくなったため、連係一つ一つがとても見えやすかった。また、どのチームも係わりにおいて、工夫が見られ、オリジナリティ溢れる作品を一つ一つ採点することが出来て、大変勉強になった。

3、その他特記事項・意見・感想等

このたび、ルール改正後、国内で初めての全国規模の大会の審判業務に携わらせていただきましたこと、心より感謝申し上げます。

新ルールのもと、選手・指導者・審判員すべてが緊張感のある中での大会でしたが、ミスがあったとしても、どの選手・チームからも「演技へのこだわり」が強く感じられました。

特に団体演技においては、難度数の減少により、各団体の個性やカラーがより鮮明に表れており、大変感銘を受けました。

構成・フォーメーション・音楽のとらえ方・表現方法など、団体ごとの工夫が随所に見られ、審判としてだけでなく、一人の観る者としても非常に学びの多い大会となりました。

また、今サイクルでは、難度の個数が減ったことにより、0.1 の価値の重みをより実感しました。「手以外」「視野外」など、ルールに則った実施の積み重ねが、選手やチームの得点を大きく左右します。その 0.1 を「勝ち取る」難しさ、そしてその積み重ねの大切さを改めて感じました。選手・指導者が 0.1 にこだわって積み重ねてきた努力に応えるためにも、私自身、今後も映像等を活用した採点練習を継続し、見極める力を高めていきたいと強く思います。最後になりますが、本大会開催にあたりご尽力いただきました全ての皆さまに、心より感謝申し上げます。この貴重な経験を糧に、今後の審判業務においても、より一層の精進を重ねてまいります。この度は誠にありがとうございました。

1、採点上打ち合わせた事項

【個人 DB ボール・リボン】

- ・DBの誤差の見極めの確認を行った。
フェッテターン20度の誤差での、カウントすべき回転数の見極め、後屈の誤差にてダウングレードになるDBの確認。
- ・手具操作のタイミングや、操作が条件を満たしていないケースなど、映像を見ながらカウントノーカウントの確認を行った。
- ・この度のルール変更により、ボールに関しては手の周りでの操作が最低2回となったことで、DBの選択によってはこの操作の実施により取れない難度が発生することを確認した。
- ・Rについて、垂直軸回転グループ1が2つのRで可以使用すること、また、繰り返した場合の条件の確認、回転による投げについて、回転中の投げであるのか、回転後の投げなのか見極めの確認を行った。

2、採点上起こった事項とその処理

【個人 DB ボール・リボン】

- ・手の周りでの操作をバランス難度中に実施する選手が見受けられた。1秒の静止がきちんと見え、ルールに則って最低2回の操作が完全に終わられているものをカウントとした。
- ・フェッテバランスにて動脚の足が床に上へ触れている選手、つなぎにてホップを踏んでしまう実施についてはカウントすることができなかった。
- ・フェッテターンにおいて、20度以上の誤差を伴う実施についてはカウントすることができなかった。
- ・後屈を伴うジャンプでは、後屈の誤差によりダウングレードにてカウントした。
- ・Rについては基本回転の不足により、ノーカウントとなったケースがあった。
- ・受けながらの最終回転でのタイミングの見極めが難しく、音楽終了後に手具を受けるなどの実施により、審判間で差異が生じたときには確認を行った。
- ・ジャンプターンシリーズでのRの実施について、投げから受けまでの一連の動作が全体的にはタイミングよく行われている印象を受けた。しかし、ジャンプの誤差や受けのタイミングによっては、最初のジャンプのみカウントとなり、Rは無効となった。価値点が高く、実施している選手も多いので、正確な見極めを目指したい。

3、その他特記事項・意見・感想等

高校生の三大大会の一つであるこの選抜大会に、審判員として参加させていただき心より感謝申し上げます。

ルール変更後初の大会ということもあり、審判員として緊張感を持ち臨ませていただきました。

選手たちにとってはルール変更後から時間も十分ではなく、まだまだ熟練されていないこの時期に、4種目競技と団体も兼任にて出場する選手もいる中で、大変過酷な大会であったかと思います。

しかしながら、選手たちのエネルギー溢れる演技に、このルールの大切な部分は何であるのかを、審判員としても選手たちの演技に学ぶことが多くありました。

DBを担当させていただきましたが、技の随所にこのルール変更における芸術性の重要さが見える演技が多くあり、1つ1つの動きにこだわりを持ち、振付だけではない表情や感情での表現に、工夫を感じました。

最後に、大会運営にあたりご尽力いただきましたすべての皆様に感謝申し上げ、今大会の経験を活かし、今後さらに学びを深めてまいりたいと思います。ありがとうございました。

1. 採点上打ち合わせた事項

- ・今ルールで該当しないものは「試み」に入らないということの確認
- ・視野外の確認
- ・DA一覧表より、ベースの詳細確認
- ・回転 360 度の確認
- ・手具操作のタイミングの確認

2. 採点上起こった事項とその処理

【フープ】

- ・視野外に関する条件を満たさないケースがみられた
- ・回転 360 度（基準）がなく、ノーカウントとなるケースがあった。特に垂直軸のものは、小さいミスによって 360° に満たない状態で技を終えてしまうケースがみられた
- ・軸回しのベースがきちんと実施できていないものが多くあった
- ・転がしの 2 部位が足りないケースがあった

【クラブ】

- ・クラブ回転 360 度（基準）がなく、ノーカウントとなるケースがあった
- ・風車での回転（視野外）の際、手首が離れすぎていて風車が見えにくいケースがあった
- ・視野外に関する条件を満たさないケースがみられた
- ・バランスの静止があまく、DA がカットになるケースが多かった

【団体 DA】

- ・CC のタイミングが一緒になってしまうチームがあった
- ・複数投げ、受けのかかわりが明確でないチームがあった
- ・CR のくぐり抜けで、人で形をつくる際完全につながっていないチームがあった

3. その他特記事項・意見・感想等

新ルールになって初めての全国大会ということもあり、審判をするにあたって例年以上の緊張感と責任感を感じながら採点させていただいた。

個人 DA は、同じ DA でも 1 つ 1 つを確実に実施する選手と、曖昧な実施になってしまう選手の差が明確であった。団体 DA は、前サイクルのルールよりは見易くなったと感じた。つなぎやかかわりを工夫すればするほど DA としては見えにくくなる部分もあったので、そこは自分自身が研鑽を積むべきだと感じた。新ルール伝達から時間がない中、個人 4 種目、また団体を全国の舞台で堂々と踊る選手たちを見て、選手や指導者の熱意を感じた。

スムーズな運営をしてくださった香川県の役員の皆さま、高体連の役員の皆様本当にありがとうございました。また、このような大会に審判員として参加させて頂けましたことに心より感謝申し上げます。

1、採点上打ち合わせた事項

【個人 DA ボール・リボン】

- ・視野外位置
- ・DB の繰り返しは試みとして記録しないこと
- ・基準の NA
- ・DA で使用された DB がノーカウント（誤差）になるものについて
- ・試みなのか、試みではないのか
- ・360° の回転について
- ・ベースの正しい手具操作について
の確認等を、確認し映像研修で見方を合わせた。

2、採点上起こった事項とその処理

【個人 DA ボール・リボン】

- ・ボール、リボン両種目とも視野外位置が明確な選手と、不明確な選手に分かれたが、採点にそってカウント、ノーカウントの見方を確認した。
- ・360° の回転不足、タイミング、関わりのタイミングでカウント、ノーカウントの見方を確認した。
- ・DB 中の DA でバランスを実施した際に、バランスの静止がなくノーカウントにすることが多くあった。
- ・ボールの付きについて、膝下で付きの実施を行っている選手が多く、3 回の付きがなくノーカウントにすることが何度かあった。膝上で行う予定だったかもしれないが、演技中には明確に膝上には見えない選手が多かった。
- ・リボンでは、らせん・だけいの操作が不正確な選手は、全ての DA で不足が見えノーカウントになるものがあった。正しく実施する大切さを再認識した。
- ・ブーメランで、引き戻す動作が確認できずノーカウントになるケースが何度かあった。

【団体 DB フープ 2×ボール 3】

- ・フェッテピボット、ドゥバンフェッテのカウントが誤差でノーカウントになってしまうチームが多かった。
- ・DB のグレードダウンもいくつかのチームであった。5 名全員の実施力が揃う DB を選択することが重要だと感じた。
- ・DB 中の手具操作が不正確、タイミングが不正確でカウントできないチームもいくつかあった。アンサンブルというこもあるが、両種目正確に DB 中に実施することが少し甘かったように思う。
- ・DE の高さ、距離は明確だったが、投げ・受けの加点が不正確だったり、同じものを繰り返し実施してしまうチームもあった。

3、その他特記事項・意見・感想等

今大会で審判をさせていただきましたことに、心より感謝いたします。

新ルールになり初めての全国大会ということで、事前に審判研修資料など多く提供していただき、目を通すことができ自身の学びも多くありました。同時に、まだまだ新ルールへの学びは不足していると痛感もしました。

今大会で採点させていただき、個人、団体ともに各選手、各チームがルールに沿って努力を重ねてきた様子が伝わりました。D の実施力、芸術の方向性、採点にそった作品内容、選手自身のエネルギー・表現力、全てにおいての実施力は未熟なところも多かったかと思いますが、今回の大会を経て、夏の全国大会ではどの選手、チー

ムも仕上げてくるだろうと楽しみに思います。

最後になりましたが、開催県である香川県の先生方、高体連専門部の皆さま、開催にあたりご尽力いただきました全ての皆さまに心より感謝申し上げます。

今大会の学び、経験を活かしさらに自身の学びを重ねていきたいと思います。

本当にありがとうございました。

【個人A、団体A 一瀬留美子】

1、採点上打ち合わせた事項

事前に、今年度の全国ルール講習会の資料を各自確認した。また、多くの映像を前もって送っていただき、それぞれ得点をつけて研修会に臨むことができた。

(前もってたくさんの作品を見てから審判に臨めたことには大変感謝いたします。ありがとうございました。)

【A】

- ・パーツ中にDが2つあるかどうか、またキャラクターがずっとあるかをしっかりと見極める。
 - ・身体の実現では、ステップ中に完全に全身を使って動いているかを見極め、減点が入るかどうか確認する。
 - ・表現については、2つ以上のパーツで表現を優先しているかをしっかりと見ること。
 - ・団体において、手具との接触なしが5秒以上かどうかの確認。
 - ・団体のつなぎやリズムの減点では、立ったり座ったり、誰かを待ったりするなどにも減点が入ることを確認した。
- また、曲には合っているが、中間・最後のパートなどでアクセントに合わないところにもリズムの減点が入るなどの確認をおこなった。

2、採点上起こった事項とその処理

【個人A】

・パーツに関して構成上は入っているのかもしれないが、キャラクターが見えなかったりミスにより乱れたりして見えづらい選手が多かった。また、難度中にキャラクターを見せられるのは、身体がしっかりしていないとできないと思った。しかしながら、その中でもしっかりとパーツが4つ見える選手たちは、とても踊っているように感じた。

・曲があるところに動きがはまっているのは良いが、無いところでポーズをしていてもキャラクターが見えづらいと感じ、捉えるのが難しかった。

・演技の終了時に、不一致なのかリズムで引くべきなのか悩むところがあり、いくつか修整していただいた。

【団体A】

- ・どのチームも前半はつなぎやキャラクターもあり工夫が見える演技だったが、後半はとても弱く感じられた。曲は盛り上がっていても選手達からは全く変化が見えてこないことが多かった。
- ・共同作業に関しては最低2秒あるか分かりづらかったり、キャラクターが見えなかったりとなかなか見えてこないチームが多かった。しかし、今後完成度が上がれば見えてくるのではないと思われる。今回は、久しぶりのアンサンブルでの団体であったため、少しのミスが演技構成に大きく響いていた。これから熟練度を上げた試合が楽しみである。

3、その他特記事項・意見・感想等

今回審判をさせていただき、心より感謝申し上げます。

一番の感動は、声出しの応援が凄かったことです。とても心が熱くなりました。それぞれの選手たちに惜しめない声援と拍手が送られており、このようなたくさんの応援により選手たちも力を出せたのではないのでしょうか。今

後、このような試合が開催されていくことに喜びを感じずにはられません。

新ルールになり初めての試合でしたが、新ルールの求めているものを理解し、表現しようとしている作品がみられました。特に団体の上位チームは、1. 2年生のチームでありながらそれぞれのチームの目指すテーマとカラーが明確でした。どのように新ルールに対応すべきなのか審判しながらも納得した試合でした。

財政難の大変な状況の中で大会運営して下さった開催県である香川県の先生方、関係いただいた全ての方々に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

【個人 E 河野由佳】

1、採点上打ち合わせた事項

事前研修での資料を基に採点を行い、減点項目の確認をしていただいた。

多くの映像で採点を行い、審判長より DB の誤差やバランスやローテーションでの減点項目の確認をしていただいた。

2、採点上起こった事項とその処理

- ・後屈を伴ったジャンプについて、後屈の誤差で 0.5 または 0.3 の減点が入る選手が多かった。
- ・スケールやエカルテバランスは不正確な実施が多く、上体の誤差で減点が入っていた。
- ・バランスの「最低 1 秒の形の保持がない」0.3 の減点が入ることが多くあった。
- ・落下ミスにより大きな減点が入る選手も多かった。

3、その他特記事項・意見・感想等

新ルールのなつて初の全国大会ということで、審判員としても緊張もある中での採点となりました。

審判員だけではなく、選手・指導者の皆様も新ルールに対応した演技内容への変更は、大変な苦勞があったことと思います。個人においては、1 日に 4 種目を行うというハードなスケジュールの中、ミスが出る選手も多かったように思います。そのような点から、芸術性が見えづらくなつてしまった部分もあったように感じますが、これから夏の大会に向けて演技の完成度が上がり、作品の面白さが見えてくることを楽しみにしております。最後になりましたが、開催県の皆様、高体連専門部の皆様、その他関係者の方々に心より感謝申し上げます。そして、今大会に審判員として参加させていただくという、貴重な機会をいただけたことに感謝し、今後も自己研鑽を積んでいきたいと思ひます。ありがとうございました。

【団体 E 山本鈴代】

1、採点上打ち合わせた事項

- ・一人ひとりの身体難度の誤差の確認
- ・受けの際その場で整えるための移動の減点の確認
- ・基礎技術、手具の扱い等の完成度の見極め

2、採点上起こった事項とその処理

- ・全体的にミスが多く、重複による減点や移動歩数のカウント違いが多少みられた。
- ・多くのチームが、不完全な転がしなど基礎技術の完成度が低く、減点が多くみられた。
- ・5 人の能力が揃っているチームが少なく、減点が多くなつてしまひ残念であった。

3、その他特記事項・意見・感想等

ルール改正により、事前研修の映像を多く送つて頂き、しつかり研修が出来よかつた。また、当日の研修ではパート内での確認が納得いくまで出来た。団体実施は、やはり移動の減点が大きいが、身体の正しい使い方、四肢の美しさ等の評価にもつと差が出ても良いのではと感じた。